

2016年10月24日

ロングセラーのレーザー加工機にファイバーレーザを搭載 SUPER TURBO-X FIBER シリーズ登場

ヤマザキマザック株式会社(社長:山崎智久、愛知県大口町、TEL:0587-95-1131)は、1990年発売のロングセラーのCO₂レーザー加工機SUPER TURBO-Xシリーズに、新たにファイバーレーザ発振器を搭載したSUPER TURBO-X FIBERシリーズを追加します。

10月25日からドイツハノーバーで開催されるEuroBLECH 2016(国際板金加工技術見本市)と11月17日から東京ビッグサイトで開催されるJIMTOF 2016(日本国際工作機械見本市)に出展します。

ファイバーレーザは、従来のCO₂レーザに比べて波長が短く熱吸収率が高いため、銅・真鍮・アルミなどの高反射材の加工を安定して行なうことができ、しかも、薄板や中板を高速で加工できることから高い生産性が得られるのが特徴です。また、ミラーなどの光学部品を使用しないため、定期交換などメンテナンスコストが大幅に削減できます。

SUPER TURBO-X FIBERシリーズは、独自のマルチコントロールトーチにより、板厚や材質に合わせたノズルの自動選定やビーム径を自動制御する機能を標準搭載し、数々のインテリジェント機能と合わせて、さらなる生産性向上と高品質加工を実現します。

CNC装置MAZATROL PREVIEW 3は、エルゴノミクス(人間工学)に基づいた最適なボタン配置やタッチパネル式15インチカラー液晶画面などにより快適な操作性を追求しました。

また、単体機導入後でもレーザFMSによる自動化システムや棚の増設にも対応するなど、お客様の生産体系に合わせた拡張が可能です。



ファイバー レーザ加工機 SUPER TURBO-X 3015 FIBER

お問合せ先 : ヤマザキマザック株式会社 経営企画室 広報
TEL:0587-95-6849 www.mazak.jp

掲載されているプレスリリース内容は、報道関係者へ発表した情報の要約です。
ご覧の時点で予告無く情報変更が行われている場合がありますので、あらかじめご了承ください